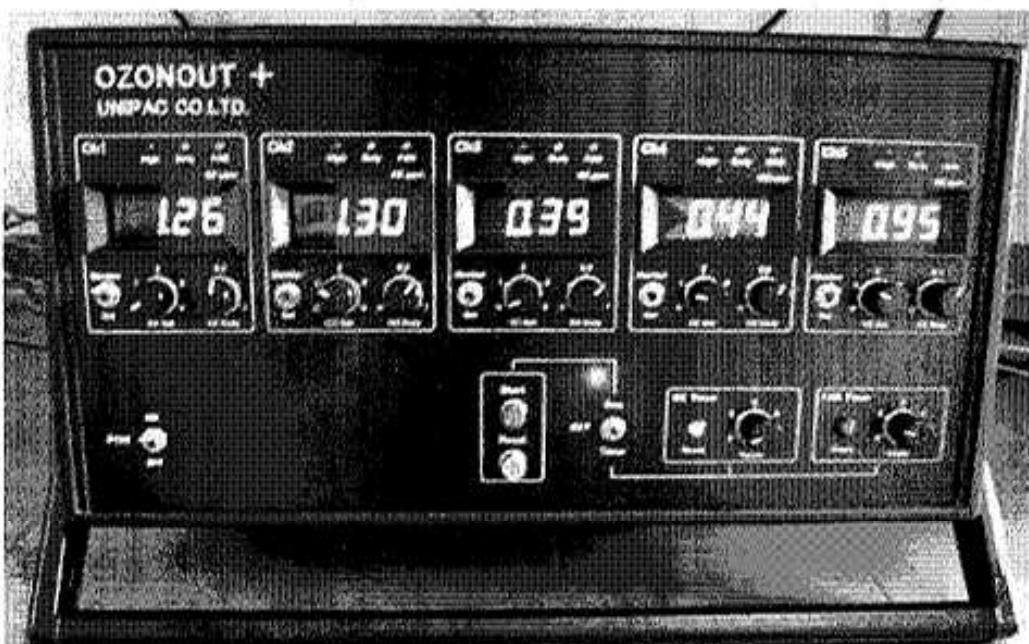


遠隔オゾン除菌システムを開発

ユニパック

コロナクラスター施設再生に貢献



オゾナウト・オゾン殺菌システム

ユニパック(埼玉県川口市・松江昭彦社長・☎048・258・6991)は、自社開発によるオゾンセンサーと遠隔集中コントロールシステムを開発した。同じく自社開発の大容量オゾン発生機と

PCとの組み合わせにより室内のオゾンガスの濃度がグラフ上で管理ができる。また、CT値(オゾンガス濃度×曝露時間)と呼ばれる目標値も常時積算値が表示される。除菌を終えたオゾンガスは

「オゾン分解装置」により安全な水準まで下げてから排気される。これまで人体に有害とされる濃度でも完全無人システムでは安全に対処することが可能となった。

今年5月、奈良県立医科大学を中心とするグループにより、CT330「オゾンガス濃度6ppmで55分の運転」で新型コロナウイルスが1万分の1まで不活化することが実験的に検証された。6ppmという濃度は市販のオゾン発生装置では数十台分に匹敵する濃度。一方、現実の居室で行うにはオゾンガスがコロナウイルスだけを対象に消費されるわけではなく、居室に染み込んだ臭気脱臭やその他微生物の除菌などで使われるため、かなり難しい

検証をクリアしたといえる。

同社はこのシステムを特許出願している。松江社長は「この『オゾナウト・オゾン殺菌システム』は室内を完全に完全除菌する新手法。来年オリンピックで海外の賓客を迎える施設での『新型コロナウイルス対策』で安全基準のお役に立ちたい」と語る。このシステムは同社社員が施工する「オゾナウトプロサーピス」を主体とし、まずは首都圏主体に除菌サーピスを行う。